R O S É

文化・交流―新しい地域創造

ロゼ

文化情報誌 ロゼ

Art information of Fuji city

Culture Magazine ROSÉ

Vol.10 WINTER 1995

冬号

Vol. 10

ROSÉ THEATRE

ロゼ

富士市文化情報誌 ロゼ 1995年1月発行(第10号)
発行 (財)富士市文化振興財団 〒416富士市蓼原1307番地の8 TEL(0545)60-2510(代)
企画・編集・制作 (財)富士市文化振興財団事業課広報係 (株)エイエイピー アタゴオル

"ROSÉ THEATRE" SPECIAL INTERVIEW

SEILER PIANO DUO

ひとあし早く、春のようなあたたかさを味わってください。

多くのクラシック・ファンが、一度は訪れてみたいというザイラー夫妻の「かやぶき音楽堂」のコンサート。いいよいよ本年三月十一日、第四回ロゼ・アフタヌーンコンサートに『ザイラー・ピアノ・デュオ』が登場します。昨年末、すでにすべてのスケジュールを終えたご夫妻でしたが、特別に、プライベートタイムにお会いすることができました。誌面では伝えきれない分は、三月のコンサートに期待することとして、ひとまず写真と記事で楽しんでください。

昨年十二月十八日、京都駅から嵯峨野線、山陰本線と乗り継ぎ、一時間余り、低い山並みに囲まれた田園の中、日吉町胡麻の里に着く。胡麻駅は終日の乗降客三百人そこそこという無人駅。駅舎内と駅前広場に、かやぶき音楽堂『迦陵頻窟(かりょうびんくつ)』の看板。ザイラー・ピアノ・デュオをプロデュースしていただく青木さん(富士宮)と田んぼの中を、どんな意味なのか聞いてみましょうなどと話しながら、ところどころに雪の残る細い道を約十六～七分程歩く。

元は禅寺だったという、〝かやぶき音楽堂〟は、福井から移築されたものだ。年間六十回以上、日本はもとより世界各地で演奏活動を行うザイラーさんご夫妻、久し振りに胡麻へ戻り、音楽堂の大掃除の最中にもかかわらず、快くインタビューに応じてくださった。これほど多く日本全国を回っていると、行ってないところはないでしょう、と問うと「まだ十県ぐらい行ってない所がありますね。富士市は初めてですが、沼津市とか静岡県へは何度か行ってます」。

日本に来られて三十三年、ドイツ・ミュンヘン生まれのオーストリア人であるザイラー氏。どのようないきさつで日本に住むようになったのでしょう。「ドイツの人は昔から東洋文化にとても憧れを持っていて、俳句などに伴奏や曲をつけたりしていました。私は音楽の勉強のためにアメリカへ渡り、ジュリアード音楽院に奨学生として入りました。その時日本の女性と知り合って、ピアノの教授として、最初は二年の契約で日本に来たのですが、それが三年、四年となり、結局は八年間日本にいました。一時ザルツブルグへ帰ったのですが、再度日本へ招かれて来たんです」。日本の大学の招きで来日し、教え子だったカズコさんと結婚。彼女の故郷である京都に住みついた。夫人と結婚してから二十二年になるという。

氏は日本や世界各地で演奏活動、音楽教育などを幅広く続けている。しかも、もう一つの顔として〝晴耕雨奏〟といわれるように、天気が良ければ農作業、雨が降れば読書ならぬ演奏に精を出す。あなたはアーティスト?ティーチャー?ファーマー?ナチュラリスト?と問うと、「どれもみなイエス」と笑顔で応える。夫人もリサイタル、講演会、さらに執筆活動と多彩な活動を続けている。また、夫妻で埋もれた連弾曲を発掘し、演奏している。最近はほとんど連弾・デュオでの活動。ソロとかオーケストラとの協演など、他の形態での演奏は「年間六十から七十回の連弾・デュオのプログラムが組まれているので、これ以上はスケジュール的に無理ですね」と言う。

今では初夏三回、秋二回の「かやぶき演奏会」がクラシック・ファンの間で人気を博し、一時間に四十回以上も問い合わせがあったという。対応も大変で、最近テレフォンサービスを始めた。(記事後に紹介)このかやぶき音楽堂の名称『迦陵頻窟』の由来をたずねた。「〝ガラビンクツ〟と読みます。天竜寺の管長、平田老師の名付けと書です。顔が女性のように美しく体が鳥で、誰も見たことはないんですが、とても美しい声で歌を歌うという架空の鳥の名です。その歌声を私達の音楽として、その鳥が住む洞窟『迦陵頻窟』なんです。」ギッシリと詰めて三七十名程入ったこともあったが、ゆとりをもって座っていただくために、公表では二百～二五十名。コンサート時には胡麻駅の一日の乗降客と同数のファンが押し寄せる。

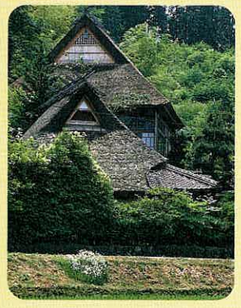
しかし、ピアニストの手で農耕作業というのがどうも気にかかり、その辺りを氏に聞くと、「ピアニストにとって、手を大切にすることはとても重要なことです。でも、手は使うためにあるものです。美しいピアノの音も、お米を作るのも同じ手です。ケガしませんね」とにこやかに答える。

音楽堂にはところどころに音響反射板がセットしてあり、わが国音響学の権威・永田穂先生のアドバイスによるとのこと、ロゼシアターも同じ先生に音響設計をお願いしたこともあって一層親しみがわいてくる。

持参した桜えびとしらすを渡し、酒の肴にいいですよ、と食べ方を説明していると、突然奥へ行き、ビンを一本持って来る。それはとても美味しいにごり酒であった。

ピアノの話、クラシック音楽の話、農耕の話、楽しい時間は過ぎるのも早い。お別れの時がきた。

寒風の中にもかかわらず、なんとも暖く心なごむ帰り道。ピアノレスであったが仲睦まじい夫妻の美しい連弾を聴いたようなひとときであった。三月のアフタヌーンコンサート、ザイラー・ピアノ・デュオがとても楽しみです。ザイラーさんお忙しいところありがとうございました。



◀田植えも終った初夏のかやぶき音楽堂

▲文字通り「暗耕雨奏」のザイラー氏

▲胡麻の里への略図

▶多くの熱狂的ファンがつめかけるかやぶき演奏会

●エルンスト・F・ザイラー　プロフィール

ドイツ、ミュンヘン生まれ。1952年ケルン音楽大学入学。1956年渡米してジュリアード音楽院入学。在学中からアメリカ各地で多くの演奏会に出演し好評を得る。'60年同大学・大学院卒業。ニューヨークに於いては、コロニークラブ主催ピアノ国際コンクールで一等賞を獲得。'61年神戸女学院の招きで来日。以来、ザルツブルクのモーツァルテウム音楽大学や国内の各大学のピアノ教授として後進の指導に当たり、数多くの若く優れたピアニストを養成してきている。現在、京都市に在住。世界各地で幅広い活動を続ける一方、伝統的ドイツ音楽の継承者として、ソナタ形式の神髄を極めるべく活動を続けており、滞日30年を越える。

●カズコ・M・ザイラー　プロフィール

京都に生まれる。1970年桐朋学園高等音楽科卒業後、ザルツブルク・モーツァルテウム音楽院へ留学。在学中よりヨーロッパ各地にて演奏活動を続ける。E・ザイラーと結婚後は、ピアノデュオとしての活動を中心に、世界各地の演奏会に数多く出演し、ニューヨークタイムスに絶賛されるなど世界的な好評を得ている。国内各地においてもデュオとしての演奏活動のほかTV・ラジオの出演など、ご夫婦で多彩な活動を続けている。

＊かやぶきコンサート・テレフォンサービス
☎(075)781-9003

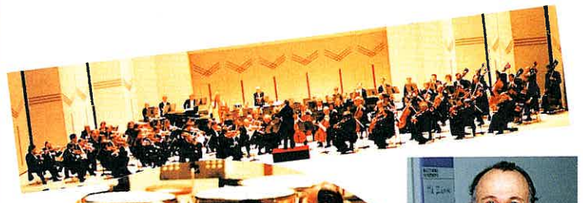
ロゼ・アフタヌーンコンサート Vol.4
SEILER PIANO DUO
'95 3月11日(土)
ロゼシアター・中ホール
開場／13:30　開演／14:00
入場料／2,500円(全席指定)ティーサービス付
制作／芸術空間あおき
主催／(財)富士市文化振興財団

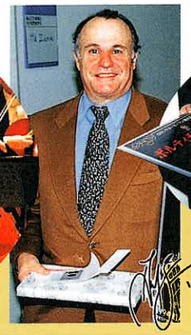
A Happy New

いまでも心に残る感動

昨年11月1日で、オープン一周年を迎えたロゼシアター。
ここではオープニングイベント以降の
4月から11月の自主事業を、フラッシュバックしてみました。
各アーティストたちのコメントと共に
あの感動をいつまでも鮮やかに・・・

（かぐや姫フェスティバルはVol.9に掲載のため割愛しました。）





●ロゼシアター・オープン一周年記念コンサート
ボルチモア交響楽団 with アン・アキコ・マイヤース
11月1日

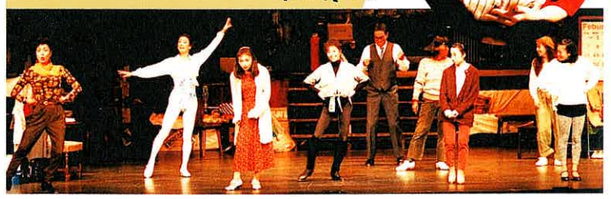
アメリカのシンフォニーオーケストラの中で、とみに評判が高まっているボルチモア交響楽団。デヴィット・ジンマン氏（音楽監督）とのコンビは抜群で、アン・アキコ・マイヤース嬢（Vn）を迎えてのコンサートは大ホールの1・2階を埋めた聴衆を釘付けにした。最後の演奏になると客席と舞台は感動の極に達し、誰一人立ち去る者もなく、開館一周年記念のこの夜のコンサートは忘れられないものとなった。

●ロゼ・アフタヌーンコンサート
「平野レミ　シャンソン&トーク」
10月2日

猛暑が残っていたが、10月初めのロゼシアター小ホールは爽やかだった。日曜の午後のひととき、ピアノと弦のシンプルな伴奏にのってレミさんの素敵なシャンソンが流れる、個性的なパーソナリティの持主、レミさんのトークも冴えてアフタヌーンコンサートVol.2は満員となった。

●ステッピング・アウト　8月9日

木の実ナナ、河内桃子、柴俊夫・・・有名スターが大挙出演のタップダンス劇、シリアスなストーリーにエンターティメント性を盛り込んだ新しいステージプレイにお客様も思わず身をのり出す。木の実ナナさん、素晴らしかったですね。



●劇団文学座「ふるあめりかに袖はぬらさじ」
10月12日

文学座の至宝、杉村春子の変らぬ舞台姿、ロゼの中ホールに初のお目見え。杉村さんの舞台をロゼシアターで見たいと多くのお客様が望んでいた。それが実現、そして期待に違わぬ出来ばえに客席は大満足。

●白石加代子「百物語」　8月25日

怖くて、不思議な話、白石加代子の「百物語」シリーズ、ロゼシアターに初登場。評判は評判をよんでチケットは早くから売切れた。ホールの照明は全部封印、舞台は薄明かりだけ、小道具もなく、音もない、朗読だけの世界に客席は完全に引き込まれてしまった。

●ふじ少年少女芸術劇場小学校
学校コンサート　10月24日～27日

ロゼシアター恒例の学校出前コンサート、今年度は小学校へ出かけた。金管楽器、キーボードを中心とした「アンサンブル・ルスティーク」の皆さんが演奏テクニックの粋をチビッ子たちに披露、みんな生の演奏に接し大喜び、体育館はヤンヤの歓声にあふれた。

●奄美・島唄絶唱　9月29日

"あまみ"の名前を聞いただけで、潮の香りが漂ってくる。南国独特の節回しにのって哀愁をおびた民謡が流れ出す。海人（うみんちゅう）が奏でる島唄はまさに太陽と南風が創った文化だった。

●聖飢魔IIコンサート　10月9日

ニューミュージック第2弾、聖飢魔II登場。開演前からガレリアは黒のコスチュームと顔一杯のメーキャップの若者でごった返した。「悪魔の大黒ミサ」コンサートは異様なムードで始まったが、すぐ客席全員が立ち上りウェーブの嵐、ロックのビートは大ホールを揺り動しはじめた。

★ロゼシアター利用者
50万人突破記念セレモニー
10月23日

一昨年11月1日オープン以来、大勢のお客様にご利用いただいたロゼシアター。11ヶ月目の9月29日に50万人を突破するお客様が入館された。市内久沢にお住まいの勝又千恵子さん（59）、この日、会議室で催された研修会に出席するため訪れたのが幸運となった。10月23日、1階ガレリアで記念セレモニーを行い、新たな気持ちで2年目を迎えることになった。

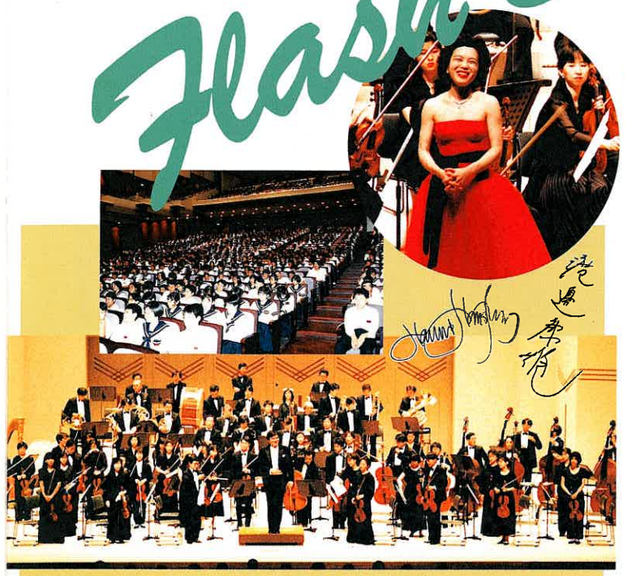
■県立美術館移動美術展
10月23日～11月3日

ロダン美術館のオープンで何かと話題のあった県立美術館。この移動美術展は、その収蔵作品が富士で鑑賞できるとあってかねてから期待されていた。静岡県にゆかりの深い秋野不矩、中村岳陵、栗原忠二など各画伯の作品、また昨年他界された曾宮一念画伯の傑作など36点を展示、洋画、日本画を問わず著名な作品が並んだため、終日多くの鑑賞者で賑わった。

EVENT REPORT '94 APR.→NOV.

再び！ Flash Back

（※サインは出演アーティストからいただいたものです。）



●新日本フィルハーモニー交響楽団演奏会　6月2日
●ふじ少年少女芸術劇場中学校招待コンサート　6月2日・3日

新日本フィル、2度目の公演。今回は、指揮に渡辺康雄、ピアノに花房晴美をむかえて、チャイコフスキー・ピアノ協奏曲第1番とシベリウス・交響曲第2番ほかを演奏、スケールアップしたオーケストラのだいご味を味わせてくれた。またこの公演では、市内中学校生徒を招待して、生のクラシック音楽に身近に接する機会をもった。

●ウィーン少年合唱団　4月4日

ハイドンやシューベルトも入団していたというウィーン少年合唱団。その声の美しさは500年を経た今日、なお一層輝きをます。この夜"天使のうたごえ"は大ホールいっぱいにこだまして聴衆に深い感銘を与えた。

●天野宣&阿羅漢「太鼓の世界」　4月22日

天野宣は山梨県に本部をおき、クラシック、ジャズと共演をはたすなどジャンルを問わないチャレンジ精神で活躍の場を世界に広げている。中ホールの舞台では太鼓道の魂宮士にとどけとばかり、"ど迫力"で聴衆の心をゆさぶった。

●ロゼ・アフタヌーンコンサート
松居直美オルガンリサイタル　5月21日

「ポジティフオルガンの音、初めて聴いたワ・・・」そんな感想がティータイムに交わされている。松居さんの解説を聞き、荘厳なオルガンに身をゆたね、三原企美子さん、池内淳子さんの美しいソプラノにうっとり。マタニティーサービス付のユニークなコンサートだった。

●アルフレッド・ハウゼ　タンゴオーケストラ　6月16日

ご存知、ハウゼのコンチネンタルタンゴ、ロゼに登場！1曲目から小気味よいタンゴのリズムが大ホールに満ちあふれ、心はすでに誰もが知っている碧空、ラ・クンパルシータの中・・・、この夜世代を越えて集った多くのお客様は、それぞれに想いをはせてタンゴを満喫した。

●'94 MAYコンサート　5月29日

ロゼがおくる恒例となっているMAYコンサート。今年は、7人の富士市出身の若き演奏家が出演した。新たな出発を心に期して、ピアノ・電子オルガン・声楽・フルートとこれまで勉強してきた腕前を披露、客席からは温かい眼差しが注がれていた。この日のゲストとしてピアニスト椅田和泉さんが出演した。

●ポリショイ劇場
グリゴローヴィッチバレエ団
7月14日

ロゼシアターの目玉となった世界のバレエ公演。今回はポリショイ劇場グリゴローヴィッチ・バレエ団による「白鳥の湖」。若いダンサーを中心にポリショイの輝かしい伝統美が新しい舞踊芸術を創生したと評判のバレエ団。コール・ド・バレエが華と咲く「白鳥の湖」の上演を家族連れのお客様は充分に楽しんだ。

●ロゼ・イブニングコンサート

▲恋する作曲家たちⅠ（木管八重奏）
6月24日

イヴニングコンサート、恋する作曲家シリーズがスタート。第1夜は「モーツアルト・神童と悪妻？」と題して、オーストリアの名門ザルツブルク木管八重奏団による室内楽演奏会。松尾祐孝さんの解説により、モーツアルトの名曲が滋味豊かな木管の音色にのってホール一杯に響いた。

▲恋する作曲家たちⅡ（チェンバロ）
8月5日

恋する作曲家たちシリーズ、第2夜は「バッハ・神様が恋人」と題する小林道夫チェンバロ演奏会。初登場のチェンバロは小ホールにまさにピッタリ、しんしんと響く妙なる調べは心が洗われるよう、この世界の権威小林さんのバッハは私たちを古楽器の世界へ誘ってくれた。

ROSÉ SPECIAL FEATURE

ロゼシアターへの熱き声が聞こえる!!新たな夢が見える!!

1,121人からのメッセージ!!〈ロゼ・アンケート調査結果報告〉

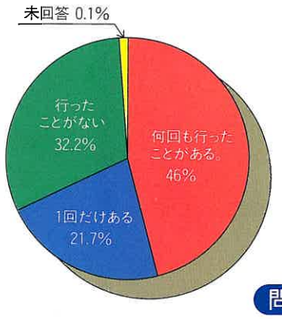
オープン一周年を迎えたロゼシアター。新しい文化情報発信拠点として、どのような形で市民の皆様に浸透し、定着しつつあるのでしょうか…。
財団では一周年に当たる昨年11月に無作為抽出で選んだ3,000人の方に、アンケートをお願いしました。その結果、1,121人の皆様から回答をいただき、この度その調査結果がまとまりましたので、概要をお知らせします。
市民の皆様と二人三脚で成長してゆくロゼシアター。今回お寄せいただいた熱きメッセージを足掛りとして、これからもより多くの芸術文化の提供と、個性豊かな「ふじの文化」を育み、発信し続けていきたいと思います。

「アンケート調査結果」進呈

この調査結果の詳細は、別刷りの小冊子にまとめました。ご希望の方は、下記までお申し込みください。(無料・先着50名様)

TEL. 0545-60-2513

問1:あなたは、この一年間にロゼシアターへ行ったことがありますか。



この1年間で、市民の約68%がロゼシアターを利用。

(市民の3人に2人がロゼシアターを利用しました)

1年経過した時点での利用は、「何回もある」と「1回だけある」を合わせると67.7%となり、市民の3人に2人以上がロゼシアターを利用したことになります。

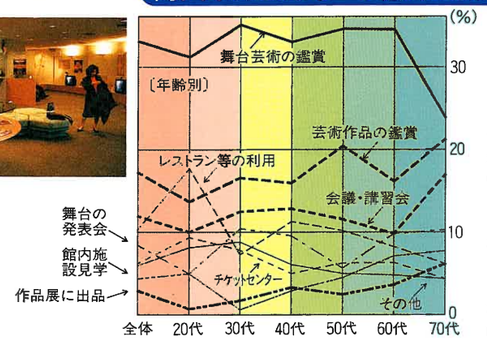
(女性の利用が目立ちました)

これを男女別で見ますと、男性では「何回もある」と「1回だけある」を合わせたものが58.9%なのに対して、女性は76%と女性の利用が目立ちました。

(職業別では主婦が、年齢別では40代が最も利用度が高い)

同じく職業別では、主婦が「何回もある」と「1回だけある」の合計で75.5%、次いで自営業63%、会社員62.6%の順となっています。また、年齢別で見ると、40代で74.2%、次いで70代71.9%、50代69.2%の順となっており高年齢層の利用度が高いことがわかります。

問1-A:ロゼシアターに行った主な目的は何ですか。(複数回答)



舞台芸術や芸術作品鑑賞が主流

(芸術鑑賞目的が全体の50.1%)

回答は(複数回答)延1,468件に達しました。この内舞台鑑賞が483件、芸術作品鑑賞が253件で、両者を合わせると芸術鑑賞目的での利用が全体の50.1%となります。これに対して舞台発表、展示会出品など市民自体の文化活動目的での利用は全体の11.1%(164件)でした。

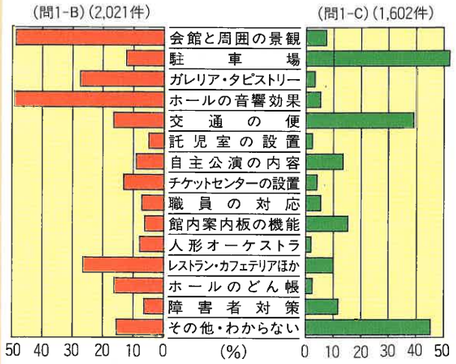
(文化芸術活動以外での利用も活発)

この分野では、会議・講習会等参加175件、次いでレストラン等の利用149件、チケットセンターの利用92件、館内見学会参加64件の順で全体の32.6%でした。

(高年齢層の活発な利用が目立ちます)

年齢別に見てみますと、50〜70代の利用は延730件で回答者数が356人ですから1人当たり2.05回利用しています。これが20代では1.73回、30代1.8回、40代1.9回ですから、高年齢層が活発に利用していることがわかります。

問1-B:ロゼシアターのよい点は何?/問1-C:ロゼシアターの不満な点は?(各複数回答)



よい点を積極的に評価

(件数的に、「よい点」が「不満な点」を大きくリードしました)

ロゼを利用した回答者に、「よい点」、「不満な点」を尋ねてみました。その結果「よい点」が2,021件、「不満な点」が1,602件で、件数的にはよい点が不満な点を大きくリードし、利用者がロゼに対して積極的な評価をしていることが窺えます。

(よい点では、「ホールの音響効果」と「会館と周囲の景観」)

最も高く評価されたのが、「ホールの音響効果」で49.3%。僅差で「会館と周囲の景観」48.4%が続きます。

(不満度の高いものは、「駐車場」と「交通の便」)

不満度の最も高かったのが「駐車場(案内板を含む)」で51.8%。次いで「交通の便」39%、「館内案内板の機能」15.2%の順でした。特に「交通の便」は、職業別では主婦が47.8%、年齢別では70代が52.7%と高い不満度を表しています。

問1-D: ロゼシアターへ行ったことがない主な理由は何ですか。

「行く機会がない」43%、「興味のある催事がない」31.8%

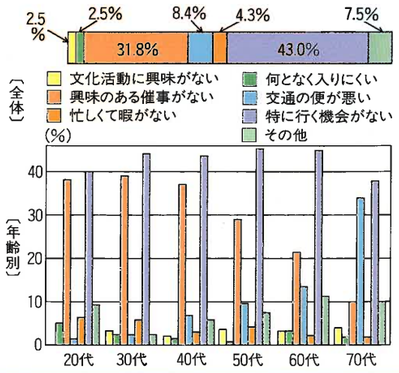
(「特に行く機会がない」43%、「興味のある催事がない」31.8%)

問1で「行ったことがない」と答えた32.2%(361人)の方に、その理由を尋ねてみました。

行ったことがない理由の第1位は「特に行く機会がない」43%。次いで「興味のある催事がない」31.8%、「交通の便が悪い」8.4%、「忙しくて暇がない」4.3%の順で、上位2つで全体の7割強を占めています。

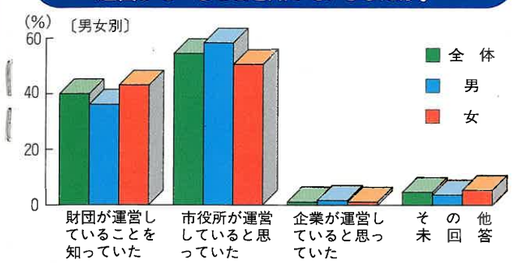
(20〜40代は内容に対する不満、60〜70代は交通の便に対する不満)

年齢別に見てみますと、「興味のある催事がない」に対しては、20代38%、30代39%、40代37%と高く全体(31.8%)を上回っています。これが高年齢層になると、「交通の便」に対する不満が急増し、60代13.5%、70代34%となり、全体(8.4%)を大きく上回っています。



回答をお寄せいただきました皆様ご協力ありがとうございました。

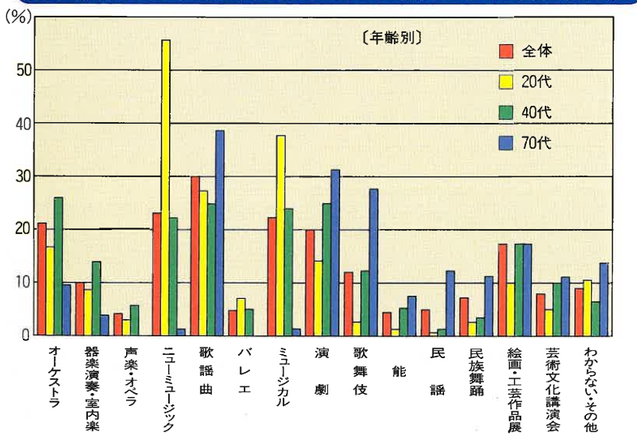
問2:ロゼシアターは、(財)富士市文化振興財団が運営していることを知っていましたか。



回答者の過半数が市の運営と認識

全体では「市役所」54.3%、「財団」39.8%、「企業」1.1%という順で、回答者の過半数が市の運営と認識していたことになります。男女別では「財団」と答えた女性43.1%に対して、男性は36.8%にとどまりました。

問4:あなたがご覧になりたいジャンルは何ですか。(複数回答)



年代によって好みのジャンルに大きな差が

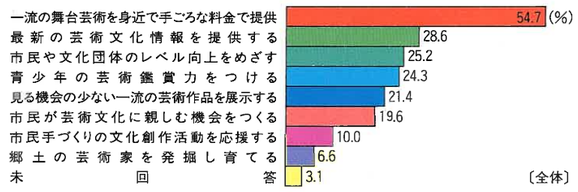
(歌謡曲が全般的に安定した支持)

全体では「歌謡曲」29.7%、「ニューミュージック」22.7%、「ミュージカル」21.9%、「クラシック(オーケストラ)」20.7%、「演劇」20.2%の順となりました。この内第1位の「歌謡曲」は、他のジャンルに比べて、職業別、年齢別、居住年数別、家族構成別等において一定の支持率を得ており、全般的に安定したものとなっています。

(年代によってはっきり別れる好みのジャンル)

例えばクラシックでは、40代の場合「オーケストラ」、「器楽演奏」、「声楽・オペラ」の合計が44.5%で最も高い数値となっていますが、70代ではそれが13.1%。また古典芸能では、70代の場合、「歌舞伎」、「能」の合計が58.4%でトップですが、20代ではそれが16.2%にすぎません。

問3:財団はどのような事業に力を入れるべきだと思いますか。(複数回答)



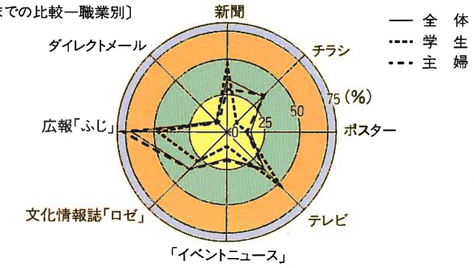
一流の芸術と豊かな文化情報を提供する

(一流の芸術を身近で、手ごろな料金で)

財団の行うべき仕事を尋ねたところ、全体では第1位に「一流の芸術を身近で、手ごろな料金で提供する」54.7%。次いで「最新の芸術文化情報を提供する」28.6%、「市民や文化団体のレベル向上をめざす」25.2%の順でした。

これを職業別で見ると、「文化情報の提供」については、自由業(48.0%)と学生(42.9%)が全体(28.6%)を大きく上回っています。また「青少年の芸術鑑賞力の向上」では、農林漁業(32.1%)が、「郷土の芸術家の発掘と育成」では、学生(19.0%)がそれぞれ全体を大きく上回っています。

問5:財団の自主公演や市民の文化活動を広く知らせるのに、どんな広報手段がより効果的だと思いますか。(複数回答)



—「広報ふじ」への掲載—が群を抜く

(「新聞掲載」、「チラシ配付」、「テレビ放映」、「ロゼの発行」は横並び)

全体では「広報ふじ」が64.4%と群を抜いています。続いて、「新聞への掲載」36.6%、「文化情報誌ロゼの発行」35.1%、「チラシの配付」34.8%、「テレビ放映」34.7%、「イベントニュースの発行」18.6%の順で、特に第2位から第5位までは僅少差の横並びとなっています。

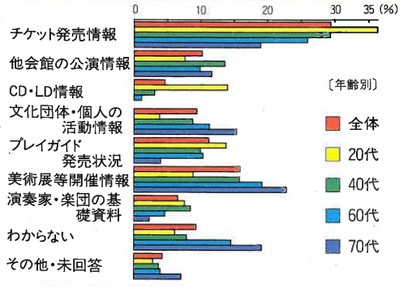
(財団発行の「ロゼ」、「イベントニュース」が健闘しています)

この中で注目したいのは、財団発行の文化情報誌「ロゼ」と「イベントニュース」が上位6位の広報媒体の中に含まれていることで、発行を重ねるごとに市民の支持を獲得しつつあることが窺えます。

(職業や年齢によって広報媒体に大きな差が)

例えば学生と主婦を比べた場合、学生は第1位に「テレビ」(52.4%)をあげているのに対し主婦は第3位(35.9%)に、また主婦が第1位にあげている「広報ふじ」(71.4%)は学生の場合47.6%となっており、情報の発信には対象を的確に把握し、その都度最適な広報媒体を選ぶことが必須条件であるといえそうです。

問6:館内1階にある情報コーナー(チケットセンター)で、どんな文化情報を手に入れたいですか。(複数回答)



チケット発売情報や公演の情報が欲しい

(「チケット・公演情報」が約半分を占めています)

県下に先駆けて設けた情報コーナー(ロゼ・チケットセンター)。全体では「チケットの発売情報」29.4%、「美術展などの開催情報」15.9%、「市内プレイガイドの発売状況」11%、「他会館の公演情報」10%の順となりました。この内、「美術展などの開催情報」を除いたものの合計は、50.4%となり、手に入れたい文化情報の約半分は「チケット・公演情報」ということになります。

(まだ知られていない、情報コーナーの機能)

これを年代別で見ますと、20代では14%あった「CD・LD情報」が30代(6.1%)、40代(3.0%)と高齢層になるにつれて減少しています。逆に70代で22.7%あった「美術展などの開催情報」が50代(19.2%)、30代(12.5%)と若年層になるにつれ減少しています。

こうした現象の中で注目に値するのは「わからない」の比率が高齢層になるにつれ拡大し、70代(18.9%)では20代(5.9%)の3倍にも達していることです。このことから情報コーナーの本来の機能はまだ十分に認識されておらず、特に高齢層に対する働きかけが今後重要となります。

素敵なオペラに出会ってください。

本年一月〜三月にかけて三夜、財団ではレクチャーコンサート『オペラへの誘い』を開催します。その企画・構成・解説を担当する青島広志さんは、作・編曲、指揮、ピアニスト、執筆業など多方面で活躍する超売れっ子。今回のホットインタビューは、豊富な知識とユニークな人柄で人を惹きつけてはなさない青島さんをお訪ねしました。

各方面で活躍されていらっしゃいますが、肩書きといいますか——

「肩書きが必要かどうか分りませんが、簡単にいいますと作曲や編曲、指揮とピアノを弾く音楽家でしょうか。」

他にも大学講師、音楽祭などの企画・出演・監修など多彩ですが、そもそもこの道に入られたきっかけは——

「作曲をやりたくて芸大を受けようと思い、好きな作曲家・林光先生の門を叩いたんです。先生は、芸大の講師ではないから教えられないが、オペラの副指揮はどうかと、二期会の分派〈東京室内歌劇場〉で仕事を手伝い始めたのがきっかけです。指揮からピアノ伴奏、歌い手さんの歌詞書き、会場の手配など何でもやりました。それから二期会の録音や練習にも声が掛かるようになったんです」

では作曲を始めたのは——

「当時、歌い手さん達の間では私をピアニストと思っていて、本番は偉いピアニスト、稽古台は私となっていたんです。それを可哀想だと思ってくれた歌い手さんが、自分が指揮をしている合唱団に小さな曲を書かないかと声を掛けてくれ、それが作曲の始まりです。私の作品に『黄金の国』という歌劇がありますが、芸大を卒業する時に第三幕、大学院を出る時に序幕・第一・第二幕を書きました。芸大を出たら作曲はやらないかもしれないと、四年・二年と今迄お付合いしてきたオペラを作曲してやめようと思ったんです。ところがその作品が、都の芸術祭主催公演となり、先ほどの肩書きではありませんが、作曲家として世に初めて出たんです」

突然話が変ってすみませんが、イラストも描かれるんですね——

「小さい頃は少女漫画家になりたかったんですよ。ピアノを習っていた頃レッスン場は女の子ばかりで、毎回少女漫画の連載を読むのが楽しみでした。過去に少女コミックという雑誌に投稿して原稿料を貰ったこともあるんです」

では後ほどイラストを描いていただくとして、現在所属の二期会という名前の由来を教えていただけますか——

「戦前のオペラ活動を第一期と見た訳です。戦後一九五二年に再開して、当時の若手アーティストの活動を二期と呼び、その人達が中心となって二期会という名が付いたんです」

今回のプログラムのチケットは売れ行き好調なんですが、一般的にクラシック、特に歌劇は特別な人が観るものと思われがちなんですね。それからオペラの発生した経緯とか、初心者にお勧めのオペラなどを——

「理由は分かりませんが、今回のように解説しながら演じることも一つの良い方法だと思います。本来日本人は歌好きなんですが、西洋音楽の悪い部分の影響で歌の入ったものは低く見られがちかも知れません…オペラの経緯は、宮廷音楽の中に、オケに一部歌が付いたセレナータ、歌にオケが少し付いたカンタータがあります。後に市民に力が付いてきたルネッサンス期の一五九八年、最古のオペラがフィレンツェで開催されたといわれています。内容はギリシャ神話ですね。その後十九世紀中頃、ドイツ系の人が分りやすいセリフ入りの歌劇を作ったのがオペレッタ。アメリカに渡り、踊りが加わったものがミュージカルという流れですね。初心者へのお勧めですが、楽しむならオペレッタの〈こうもり〉、感動したいのなら団伊玖磨先生の〈夕鶴〉、それに〈蝶々夫人〉のように日本を題材にしたものも分かりやすいですね。オペラは非現実の世界ですから、思いっ切り幻想的な〈魔笛〉とか、子供向けですが〈ヘンゼルとグレーテル〉もお勧めです。素敵なオペラに出会えれば楽しくなります」

とても分りやすい解説を聞いているようで、ロゼシアターでのレクチャーが楽しみとなりました。どうも貴重なお時間をありがとうございました。

作曲家

青島広志

PROFILE

あおしま ひろし/1955年東京生まれ

幼いころから音楽・美術・文学に興味を示し、その第一歩として少女漫画に手を染める。
現在も自著の装丁やイラストを手がけている。
東京芸術大学大学院修了時のオペラ「黄金の国」が
1983年・1990年の都民芸術フェスティバル主催公演となり、作曲家としての地位を築くが、
それ以前から現在まで21年にわたるオペラ指揮者としての功績は大きく、
バロックから邦人作品までの50作を超えるレパートリーを持っている。
指揮者としての活動も近年盛んで、「天国と地獄」(1991年都民芸術フェスティバル)ほかの指揮をし、
更に大きなイベントの構成・司会を多数任されている。NHK「ゆかいなコンサート」初代総監督を8年つとめ、
現在もラジオ日本「クラシックコンサート」NHK「名曲音楽館」レギュラー。
東京芸術大学・都留文科大学講師、東京室内歌劇場運営委員、日本現代音楽協会・作曲家協議会会員。

注目したい、水戸芸術館からの文化発信。

今回のリレーエッセーは、来る二月十日・十一日に上演の「景清」の演出家鈴木忠志氏にお願いしました。氏は静岡県出身で国際的にも著名な演劇人として大活躍の方です。

水戸芸術館がオープンして、六年目を迎えようとしている。水戸黄門、偕楽園の梅、納豆でしか知られていなかった水戸という街が、芸術館のオープンにより、全国の文化関係者、行政官の注目するところとなった。

水戸芸術館は、演劇、音楽、美術の複合文化施設で、水戸市の市制百周年記念事業として、総工費一〇三億円で建設された。この芸術館が話題となったのは、水戸方式とよばれるその運営方式による。佐川市長(当時)の、水戸を世界的な文化発信ができる街にしたいという大きな目的のもとに、日本の自治体のなかでも画期的な文化施設の運営が実現したのである。

まず、演劇、音楽、美術の各部門に芸術総監督をおき、その部門の事業予算の執行権と人事権を与えたこと。次に、水戸市の一般会計と特別会計をあわせた予算の上限一パーセントを、毎年芸術館の運営費とすることを議会が了承したこと。そして、専属の芸術集団をもったこと。この三つである。なかでも、劇場の専属劇団ACMがつくられたことは、日本で初の試みであり、日本の文化行政の上で、大きな意味をもっている。

水戸芸術館の専属劇団ACMには、現在二十二歳から二十四歳までの二十五名の若い劇団員がいる。全国から応募のあった二百名の中から選ばれた彼らの出身地は、北海道、高知、京都、東京など様々だ。水戸市出身の劇団員はその中で二名だけである。彼らは、全員水戸に居を移し、朝から夜遅くまで訓練と公演のための稽古に励んでいる。劇団員の契約は年俸制。けっして高給とはいえないが、全国から集まった若い演劇人が、水戸に移り住みながらこのような活動を持続できる、その魅力とは何なのか。それは、水戸芸術館で保障されている時間と空間の贅沢さにある。芸術館にはリハーサル室が三つあり、それが二十四時間使える体制にある。そして、公演の稽古が劇場で、特に新作の場合は一ヶ月間劇場で稽古できるスケジュールになっている。これはACM劇場が貸劇場ではなく、芸術の創造の「場」としてつくられているからできるのである。現在東京にある劇団のほとんどが、いつでも自由に使える稽古場と優先的に使用できる劇場をもっていないことと較べると、まったく違う環境にあるといってよい。毎日の訓練や稽古を保障する「場」、自分たちの作品を創り出す「場」。集団が創り出す芸術である演劇において、この創造の「場」をもつということがどれだけ舞台成果に重要なことであるのか、劇団ACMはその意味を着実に示していると思う。

劇団ACMの専属演出家長谷川裕久は、茨城県出身で現在二十九歳である。彼は、一昨年から〈日本の悲劇シリーズ〉として、日本の古典を現代的に読み直し、それを現代的な舞台センスの中に再生しようという試みをしている。九十三年には『さんせう太夫』を、九十四年に『平家物語』を題材にした『平景清』を、そして今年一月には『赤穂浪士』を発表した。このシリーズを通して、歌舞伎やオペラに対抗できるような現代演劇のスタイルをつくっていこうとしている。

こうした持続性をもった演劇的作業というものは、東京ではなかなか成立しない。いい作品ができたとしても、それが財産として蓄積していかない。東京では、水戸芸術館のように年間の予算が保障されていたり、劇場をいつでも使えるということはない。一度上演したものを何度でも再演するのはむずかしい。時間的にも経済的にも、何年もかけてひとつの作品をよりよいものにしていける「場」がないからである。ACMの存在は小規模とはいえ、現在の演劇界にとってはたいへん重要なことであり、刺激的な意味をもっている。

二月に富士市ロゼシアターで上演する『景清』は、昨年ACMで上演した『平景清』を、私が主宰する劇団SCOTとACMの合同公演版として改訂した舞台である。劇団ACMにとっては、水戸という地から外にむかって踏みだす大きな一歩となる公演となる。ぜひ皆さんにも暖かく、また厳しく見守っていただきたい。

演出家

鈴木忠志

PROFILE

すずき ただし/静岡県清水市生まれ

早稲田大学政治経済学部卒業。1966年に劇団SCOTを創立(Suzuki Company of Toga:旧名早稲田小劇場)。1972年フランス政府主催の世界演劇祭に招かれ参加。以来、イギリス・アメリカ・ドイツ・イタリア・ソ連・ギリシア等、各国の演劇祭やロスアンゼルス・オリンピック芸術祭、アジア大会芸術祭に招かれて参加。現在、世界最高レベルの演出家の一人として国際的評価が高く、富山県利賀村を拠点に全世界に演劇活動を発信。1976年利賀山房(富山県東砺波郡利賀村)を開場。1982年財団法人国際舞台芸術研究所を設立。第一回世界演劇祭「利賀フェスティバル」開催。(以後毎年開催)。1988年「三井フェスティバル」(三井グループ協賛隔年開催)芸術監督。1989年水戸芸術館芸術総監督。(1994年3月退任)1993年舞台芸術オリンピック国際委員。1994年BeSeTo演劇祭日本代表。
著書 「演劇とは何か」(岩波書店)「演出家の発想」(太田出版)他多数。

ROSÉ THEATRE EVENT INFORMATION

●1995年2月～4月の催し物のご案内●

財団自主事業をはじめ、一般貸出事業を含めた2月～4月のイベントスケジュールです。これを参考に、あなただけのスペシャルプログラムを作ってください。

財団自主事業

★印は、ロゼ・チケットセンター窓口でも取扱っています。
※一般貸出事業については、平成6年12月中旬までの受付分です。
※各ホールでのイベントや展示などの日程は変更になる場合があります。

2 FEBRARY

日	曜日	ホール	イベント
3	金	小	児童文学講座
4	土	中	第18回富士市PTAのつどい
4	土	小	余暇シンポジウム
5	日	大	今泉幼稚園生活発表会
5	日	中	幸福の科学95年第1回大講演会
5	日	小	ピアノ発表会(荒川球代)
7	火	小	地震防災研修会
8	水	小	オリベン化粧品東海本部決起大会
9	木	大	ファッションショー
10	金	中	平家物語より「祇清」
11	土	大	富士見高校吹奏楽部第26回定期演奏会
11	土	中	平家物語より「景清」
11	土	小	ピアノ発表会(石垣青代)
12	日	中	富士地区書初展表彰式
12	日	小	岳南竹友会三曲演奏会
16	木	小	実践倫理講演会(婦人のつどい)
16	木	小	富士地区安全運転管理協会セミナー
17	金	小	ロゼオープニングコンサート 恋する作曲家たちⅣ
18	土	大	ハウンドドッグコンサート「HOOK ME」
24	金	小	オペラへの誘いⅡ
25	土	大	富士市立富士南中学校 芸能教室
26	日	中	第15回八十の会 ★

3 MARCH

日	曜日	ホール	イベント
4	土	大	吉幾三ショー ★
4	土	小	市民文芸表彰式
5	日	大	山川工業株式会社創立50周年記念式典
5	日	小	ピアノ発表会(高橋万理子)
9	木	大	富士市立吉原第一中学校芸能教室
11	土	中	ロゼアフタヌーンコンサート サイラー・ピアノ・デュオ
11	土	小	スプリングコンサート
12	日	中	第4回常葉学園富士短期大学卒業式
12	日	小	さいとう音楽教室発表会
13	月	大	徳永英明コンサート
15	水	小	ひのや新栄会平成7年度総会
16	木	大	堀内孝雄歌謡ショー
16	木	中	講演会
17	金	大	都はるみショー ★
18	土	中	落語二人会
18	土	小	ピアノ発表会(新井寿美子)
19	日	中	PL静岡パトン発表会
19	日	小	ピアノ発表会(加藤令子)
21	火	中	富士子ども劇場「モモと時間どろぼう」
21	火	小	福永素子門下生ピアノ発表会
23	木	大	富士東高校吹奏楽部定期演奏会
24	金	小	オペラへの誘いⅢ
25	土	大	富士高校吹奏楽部定期演奏会
25	土	小	ピアノ発表会(高橋道代)
26	日	大	劇団飛行船「ジャックと豆の木」
26	日	小	ピアノ発表会(池谷富美子)
28	火	大	かなは座人形劇
29	水	小	富士市青少年指導委員会総会
30	木	小	ヴァイオリン発表会

4 APRIL

日	曜日	ホール	イベント
1	土	大	富士カネボウオカライオンズクラブ30周年記念事業
1	土	中	シャンソンコンサート
1	土	小	歌謡ショー
2	日	大	ピアノ・ドリマトーン・大正夢発表会
2	日	小	ピアノ発表会(佐野ちふみ)
8	土	大	聖書講演会
8	土	中	聖書講演会
8	土	小	
9	日	大	聖書講演会
9	日	中	聖書講演会
9	日	小	
14	金	大	歌謡ショー
14	金	中	講演会
15	土	中	倫理文化講演会
16	日	小	ピアノ発表会(小出絵美)
19	水	中	長谷川きよしライブ
22	土	中	斉藤斗志二後援会女性4団体合同総会
22	土	小	ピアノ発表会(高瀬昌子)
23	日	大	富士フィルハーモニー管弦楽団定期演奏会
23	日	中	静岡東吟国民会創立20周年記念大会
23	日	小	みやぎ会創立15周年記念大会
27	木	中	花房シスターズピアノデュオ
27	木	小	第20回ロゼ寄席
30	日	大	国際ロータリー第2660地区会議

チケットのお申し込み・お問い合わせは
ロゼ・チケットセンター
☎0545-60-2500 ロゼ にゴー
受付時間／9:00～19:00

プレイガイド

- ●すみや
  - 富士本町店☎(0545)63-2233
  - 市役所前店東館☎(0545)53-5800
- ●富士市民センター☎(0545)61-6262
- ●ラ・ホール富士☎(0545)53-4300
- ●チケットセゾン(沼津)☎(0559)61-2405
  - 静岡・浜松店でも取り次ぎます。
- ●カワセ書店
  - 鷹岡店☎(0545)71-9592
  - 富士宮・宮原店☎(0544)24-7160
- ●ユニーサービスカウンター
  - 吉原店☎(0545)51-9027㈹
  - 富士宮大宮店☎(0544)24-0255㈹
- ●丹沢楽器富士店☎(0545)52-1586
- ●吉原商店街虹いろーどホール☎(0545)51-5227

●展示室のご案内●

展示期間	展示室	催事
2/4～5	一般 特別	富士市小中学校図工美術作品展
2/11～12	一般 特別	富士地区書き初め展
2/17～21	一般 特別	富士市中学校技術・家庭科作品展
3/8～12	一般	富士美術研究所生徒作品展
3/14～22	一般 特別	心に刻むアウシュビッツ展
3/25～30	一般 特別	創作掛け軸発表会
4/1～5	一般	マミズ・アメリカントール作品展
4/6～9	一般 特別	瑳流会書展
4/10～16	一般	石川園子油彩個展
4/18～25	一般 特別	池坊富士支部15周年記念華展

このイベントここが見どころ

「長谷川きよし・ライブ」

'69年、音楽界にセンセーショナルな話題をおこした盲目のソウル・フォーク・シンガー、長谷川きよし。「別れのサンバ」でデビュー以来、巧みなギターと透明度の高い歌声によるバラードで人気を博す。ロゼのステージでの熱いライブ。
どうぞお楽しみに!!

- ●1995年4月19日(水) 中ホール
- ●開場／18:30 ●開演／19:00 ★チケット販売日
- ●入場料／3,000円(全席指定) 1月26日(木)

【編集後記】

あけましておめでとうございます。オープン後二回目の新年を迎えた、スタッフ一同改めて気を引き締める。昨年は九月にロゼシアター利用者が五〇万人を突破、市民アンケートにも約七割の方が利用していると出た、この支持にこたえなくては▼展示室で「この絵からは音楽が聴こえてくる…」と話しかけられ、その感性に驚いた記憶がある。今号の表紙は新春を寿ぎ箏をモチーフに制作、吉原にお住まいのお師匠さんからお借りし、ロゼの茶室・無双庵で撮影した。清清しい音色が聴こえてきませんか▼今回誌面に登場して頂いたザイラーさん夫妻、青島さん、そして鈴木さん、皆さん素敵な方ばかり、公演が楽しみです。ご期待下さい。

富士市文化情報誌 ロゼ
一九九五年一月発行(第十号)
発行
㈶富士市文化振興財団
〒四一六
富士市蓼原一三〇七番地の八
TEL(〇五四五)六〇一二五一〇㈹
企画・編集・制作
㈶富士市文化振興財団事業課広報係
㈱エイエイピー アタゴオル

PICK UP PEOPLE

富士ミューズフルートアンサンブル&ジュニア

●シリーズ・富士の文化活動に参加する人々⑩

"地域に根差す文化活動"を言葉で表現はできても、その実践には多くの時間と努力が必要です。今回このコーナーに登場の『富士ミューズフルートアンサンブル&ジュニア』は、その実行とともに多彩な演奏活動を続けながら、やさしい笛の音の輪を広げている皆さんです。

富士市を笛の街にしたい

一生懸命楽器を吹きながら指揮棒を目で追う小さな子供、身長よりも大きな楽器を鳴らす人、柔らかな音色とはうらはらに、練習会場は緊張と熱気につつまれている。昨年十二月十日、富士見台公民館で開催の「歳末助け合いチャリティコンサート」のリハーサルに『富士ミューズフルートアンサンブル&ジュニア』の皆さんをお訪ねしました。

昭和五十九年、二十六名の会員で発足してから十一年。定期演奏会、リサイタル、各イベント出演から静岡県内の日本フルートフェスティバル、全国のフルートオーケストラが出演する日本フルートコンベンションへの参加、有名アーティストとのジョイントコンサートなど、会の活動もたいへん多彩です。この会の代表、茅原さんに富士地域での活動状況をお聞きすると「練習場所を主に保健婦人センターにしているんですが、スケジュールの都合により市内の各公民館をお借りすることがあり、どこも無料で貸して下さるんです。そのご好意に応えるということもあって、五年前ボランティア協会へ加入して各施設で慰問演奏をはじめました。この歳末チャリティも今年で五年目になります」昨年(平成五年)には富士市の友好都市・中国嘉興市へ親善演奏旅行へも行きました。

現在会員はジュニアも含め八十名ほど。四～五才の子供から音大生、フルート講師、教師、会社員、自営業とさまざまですが、皆フルート好きの人達ばかり。音大卒業の講師がジュニアのまとめ役、フルートの吹けない子供は前もって講師の指導を受けてからジュニアに入るシステム。子供達は他校の子との交流も自然に楽しめ、ここでも地域間の輪の広がりを感じます。

今後大きなフェスティバル等に出ることも大切だが、演奏に一層磨きをかけ、「これから四～五年かけて、三ヶ月に一回ほどのペースで市内の各公民館を回り、地域に根差した演奏活動を展開していきたいと思っています。富士市を笛の街にすることが私達ミューズの夢ですね」と茅原さん。

七月にはロゼシアターで十二回目の定期演奏会も決定している。ピッコロ、フルート、アルト・フルート、バス・フルート……意外と一般の人には知られていないフルートの種類。皆様の近くに回って来ましたら、そのアンサンブルの柔らかく豊かな音の響きに、ぜひ触れていただけたらと思います。詳細及びお問い合わせは下記まで――

富士を笛の音でいっぱいにしよう!!

- ●練習日／月2回土曜日又は日曜日のPM6:30～9:00
  (ジュニアは土曜日PM6:30～8:30、日曜日PM1:00～3:00)
- ●場所／主に保健婦人センター
- ●参加対象／ミューズ：高校生以上、ジュニア：4～5才から中学3年生
- ●会費／ミューズ：大人6,000円(半年)、学生3,000円(半年)
  入会金1,000円
  ジュニア：1ヶ月1,000円、入会金2,000円
- ●問い合せ先／富士ミューズフルートアンサンブル&ジュニア(茅原初子)
  ☎0545-51-3780 FAX.0545-51-3850